

平成26年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
5月28日（水）	匹見下地区振興センター	19:00～20:05	19	5	24

○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）19:00～19:20

(1) 平成25年度の主な成果（“ネットワークの構築と活用”に関連）

平成25年度は施政方針において「人口拡大への挑戦」、「財源の効率的配分」、「ネットワークの構築と活用による産業の活性化」の3つの基本指針を掲げてのぞんだ。

成果として、「ネットワークの構築と活用の観点」から

- ①都市交流の進展…昨年4月、高槻市（姉妹都市）、若狭町とで災害時相互応援協定締結
昨年7月、川崎市と文化、スポーツ等の交流に関する覚書締結
両市の間では商工会議所においても連携協定を結ぶ動きがある。
豊中市とは空港で結ぶ友好都市連携協定を結んだ。
伊丹空港存続のための協議会があり、萩・石見空港の季節便である大阪便の利用促進に向けて協力していくこととしている。
- ②中須東原遺跡の国史跡指定…今年3月、国史跡指定。保存と活用において、益田家文書が収蔵されている東京大学史料編纂所と島根県古代文化センターによる共同研究の成果が大きくあった。今後も進めて、平成29年に成果を発表することとしている。
- ③県立大学との連携協力協定…益田市が抱える地域課題解決に向けた提案をしていただく。例として空港の潜在利用をいかに発掘するか、匹見峡温泉を利用した観光振興等を共同研究している。
- ④東京路線2便化…政策コンテストの採択において連携して実施したことにより、2便化が実現した。羽田空港発着分を利用して地域振興を図るという取組みに対して評価された。県、近隣市町で組織する利用拡大協議会、全日空での共同提案が採択された結果である。これにより利用拡大の促進や損失負担の決意が固まった。2年間の限定措置であり、今後引き続き2便化を維持するためには、さらに本腰を入れて取り組む必要がある。
- ⑤山陰自動車道の整備促進…三隅・益田間は国の平成26年度予算で17億円ついた。これは、県内の他の事業地に比べると高額な配分である。また益田・萩間は平成25年度から優先順位絞り込み調査が始まった。これらの進展は、整備促進に向けた民間団体との連携（ゆうひライン女性の会、臨空ファクトリーパーク立地企業連絡会）によるところが大きい。匹見地区では、長沢バイパスの全線開通により、スムーズな通行が可能となった。グリーンライン90の主要道路であり、これからも県等に早期整備を強く求めている。
- ⑥給食調理場の整備の進展…吉田と美都の2カ所整備の方針が決定した。
ここでは単に給食を安全に作るだけでなく、地元の農産物、水産物を活かした地産地消や食育を実現する調理場を目指していく。

(2) 平成26年度の展望

- ①行財政改革と平成26年度予算概要…合併から10年経過するが、合併した平成16年が特別職

の減、市の職員の数の削減など行財政改革の始まりである。合併後10年経過により、地方交付税収入の段階的な削減により、今後市の歳入は少なくなることは確実である。このため、これまで以上に歳出を減らす必要がある。

昨年12月、新たな行財政改革指針策定(平成25年度から32年度)

とくに平成25年度～28年度にかけて集中改革期間として、より徹底した行財政改革を進め、収支均衡のめどを立てる。併せて、今後大型の投資的事業が必要であることやこれまでに若干ではあるが、財政指数も改善されたことから、一旦形骸化した財政非常事態宣言を解除し、その代わりに集中改革期間という期限を区切った中で、徹底した行財政改革を進めていくこととした。

平成26年度予算は288億円で先延ばしできない大きな事業があるため予算が膨らんだ。学校や市庁舎の耐震化、日赤の建て替え支援、橋の改修、昨夏の豪雨災害復旧予算などで32億円の増となった。平成27年度もまだ先送りできない大型事業があるため、予算が膨らむ。今やるのが益田市の発展に欠かせないという判断をした。また人口拡大のための施策実施においても予算が膨らむ結果となった。

- ②人口拡大計画における重点課題…日本全体で人口減少が起こっているが、益田市では昭和30年代をピークに減少が起こっており、現在5万人を割り込んでいる。人口が減少することにより、産業も疲弊する。社会保障とくに老人福祉に対する担い手もいなくなる。公共事業における建設工事における一人当たりのコストも増える。

人口拡大に転ずることは至難の課題ではあるが、あえて人口拡大につながる施策をいろんな角度から実施することで果敢に挑戦していく。それが人口拡大計画である。

これには「人口の社会増」「人口の自然増」「交流人口の拡大」の3つの要素において、同時並行的にまた多角的に実施し、効果を上げていきたい。

もうひとつ、「子育て世代に手厚く」「U I ターン大歓迎」「中山間地域を元気に」の3つの切り口で実施する。

実施にあたって、とくに力を入れていく事業として、児童医療費助成・U I ターン者応援・コンベンション等誘致・学び舎ますだの4つがある。

(2) 意見交換19:20～20:05

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 匹見における林業振興について
- ② 県道美都澄川線の改良について
- ③ 市道改良と選挙経費削減について
- ④ 澄川小跡地について
- ⑤ 益田市の人口拡大における目玉施策について
- ⑥ 子どもたちの田舎体験交流について
- ⑦ 集落内道路の維持管理方法について
- ⑧ U I ターン者の数について

○ 閉 会 (秘書広報課長)

平成26年度「市長と語りあう会」

〔会場 匹見下地区振興センター〕 開催日時：平成26年5月28日（水）19:00～20:05

要 望 事 項 等	回 答
<p>①匹見における林業振興について 匹見の林業において、木材の運搬は、川渡しになる。河川横断の許可を申請する際に漁協との協議書の提出を求められる。漁協は漁期内の河川の通過は困るとして、協議に応じてくれない。 漁期を外すと冬場の危険な時期に木出しをしなければならない。これでは林業は成り立たない。 どこに相談していいのかわからない。 高津川のごく一部分に何年も架線を張るわけではないし、ゴミの落下にも注意していく。 木材価格が下がる中で、無理な主張を山主に押し付けられても困る。 山と川との経済効果の差を考えて、漁業サイドに伝えて欲しい。</p>	<p>①林業と水産業の利害が対立する部分だと思いがどちらも益田にとっては大事な産業であるので、調整をしていかないといけないと感じている。一方を優先するわけにいかないの、どちらもうまくいく方法があるか、どちらにも譲っていただかなければならない状況もあるのではないかと思う。そこを少し研究させていただきたい。 またこの話は今初めて聞いたところで、林業サイドの問題だけでなく、漁業サイドの言い分もあると思われるので、そこを研究する時間をいただきたい。</p>
<p>②県道美都澄川線の改良について 昨年も言ったが、県道美都澄川線の落石、カーブのずれ違いの危険性を申し上げた。改善されたところもあるが、まだまだ不十分である。 3か月前には正面衝突の事故も現実になっている。是非改良をお願いしたい。 この線は美都の入り口で全面通行止めになっている。優先順位は有ると思うが、できるだけ早く対応をお願いしたいことを市長からも県に要望して欲しい。</p>	<p>②今後も続けて県にしっかりと要望し、伝えていきたい。</p>
<p>③市道改良と選挙経費削減について 1) 市道長尾原三出原線（正式には新澄川線）に落ち葉や砂利が散乱し、猪の巣になって道路が狭くなっている。昨年陳情したが、なにもされず猪の巣になっているので何とかしてほしい。 2) 財政厳しい折、市長選、市議選は同時に出来ないのか。</p>	<p>③市道については、よく現状把握し、総合支所とも連携を取りなるべく早く対応したい。 選挙の費用だが、確かに複数の選挙を同時にすれば有利である。しかし、法律の規定で任期は残任期間となるので、意味がないことである。 市の条例では変えられない。来年の市議選では単独となるが、次回市長選は参議院選挙と同時に出来る可能性はあるのではないかと考える。</p>
<p>④澄川小跡地について 澄川小学校跡地に係る予算を付けていただき感謝している。 小さいことだが、いろいろな改良部分が必要なことが他の集会所を見て感じている。金額が大きくなならない程度であれば、その要望に応じて欲しい。</p>	<p>④せっかく財源を投じて、改修し長く地域の方に使っていただきたいので、できるだけいいものになりたいと思っている。</p>

⑤益田市の人口拡大における目玉施策について
人口拡大市長としてイメージが馴染んできた気がするが、近隣市町もどこも人口減少で施策を実施し頑張っている。益田市が出す政策での目玉となる施策を教えて欲しい。

⑥子どもたちの田舎体験交流について
平成23年から農家民泊をし、都会からの人たちに来ていただいている。県のツーリズム協議会に加入し、定住促進に向けて取り組んでいる。
都市からの人（子供たち）を受け入れるのも大事だが、市内でも田舎を知らない子が多い。教育委員会の中でも、市内の子ども達への田舎体験できる交流の場を作っていただきたい。

⑦集落内道路の維持管理方法について
集落への入り口の道路は草が繁茂し、草や土が溜っているが、人力での維持管理が大変である。ミニコンボを使うなどして、機械で処理することにより、効率化すると思うが、是非検討してほしい。

⑧U I ターン者の数について
益田市でのU I ターン者の数を教えて欲しい。

⑤人口拡大のフレーズは珍しく例はない。特に今年度から人口拡大課をつくったが、ストレートに表していることでマスコミにも取り上げられた。実際には定住促進課とか地域振興課であれば、他でもある。人口減少の対策は、どこの市町も知恵を絞り取り組んでいるので、なかなか目新しい政策は難しい。

益田市ではU I ターン者応援事業があるが、この方たちへの財政支援はどこもやっている。益田市ではこれに高齢化率に応じて、中山間地域加算をつけている。実はこの高齢化率が高いのが、匹見上、下の2地域である。この地域に対しての加算率は2.0で実質3倍ということになる。知る限りでは市で行っているのは全国初めてだと思う。これらを情報発信し、全国でも目立たせることをしたい。特色を上手に持たせ、新聞記事などを利用し、経費をかけず、うまく発信させることが大事だと思う。

人口拡大計画は今後3年間で実施するものだが、これからも改善できる事業や盛り込める事業があれば組み込んでいきたい。

⑥益田市内の子ども達に来てもらって、交流することは非常に大切なことなので、教育委員会にも話していきたい。教育長も社会教育課長も子ども達と地域の方々とのふれあいを進めていきたいと考えているので、是非この地域のことを伝えたいと思っている。

今年は、川崎はコースから外れたが、高槻の親子事業を初めて実施する。これが発展させることにより、より多くの人に来ていただけるよう持っていきたいと考えている。

⑦この話は、担当課に伝え、検討させます。

⑧正確ではないが、人口拡大課の中に定住相談の窓口を設けており、市内外から毎年100組程度の問い合わせがある。実際に益田市へU I ターンされる方は、平成23年からだいたい25人から35人が窓口を通して来られるが、Uターンの方については自分の意思で帰られた方は、把握できない状況である。